

開発環境のバージョンアップに伴い、変更された、変更が必要なポイントです。

(1) MPLAB X IDE v1.45 → v5.35

① [Project Properties] のダイアログの表示フォーマットが変更された、内容は同じ

② float、double の型のデフォルトサイズが 24bit から 32bit に変更された

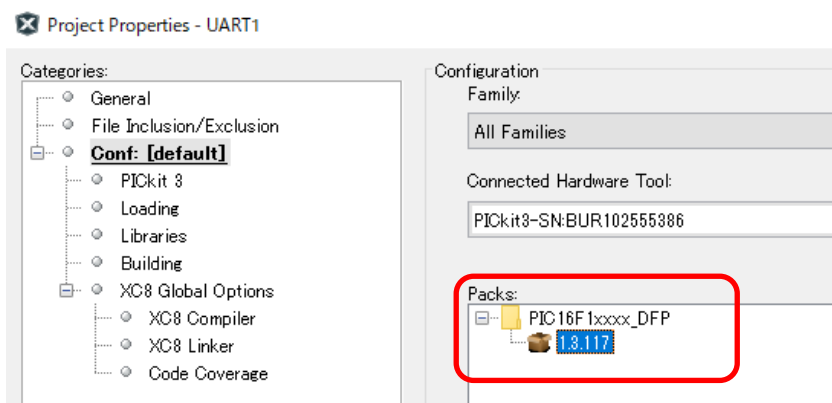
24bit 幅に変更するには [Project Properties] の [XC8 Linker] の [Memory Model] で設定が必要

③ デバイスファミリーごとのパッケージが用意され、MPLAB X IDE のバージョンアップに伴い更新される古いパッケージの場合コンパイルできなくなるため、常に最新のものに変更する必要がある

【Packs の変更方法】

[Project Properties] の [Packs] 欄で選択する

DFP: Device Family Packs



(2) XC8 コンパイラ v1.45 → v2.10

C90 標準対応から C99 標準対応に変更されたことにより下記が変更となった

①型定義のチェックが厳しくなったことで下記変更が必須

```
void putch(unsigned char Data) → void putch(char Data)
unsigned char getch(void) → char getch(void)
```

②インラインアセンブラの #asm #endasm の記述が削除された

③データ定義の絶対アドレス指定の方法が変更された

```
@ → __at() に変更
例 unsigned int Buffer[50] @ 0x120; → unsigned int Buffer[50] __at(0x120);
int Settings[] @ 0x200 = {1,3,10,50,100};
→ int Settings[5] __at(0x200) = {1,3,10,50,100};
```

④型定義の bit が削除された

⑤ベクタ割り込みへの対応で割り込み関数の Attribute が変更された

```
interrupt → __interrupt()
例 void interrupt ISR(void) → void __interrupt() ISR(void)
```

⑥マイクロチップとして型定義の記述方法が下記に統一されつつある

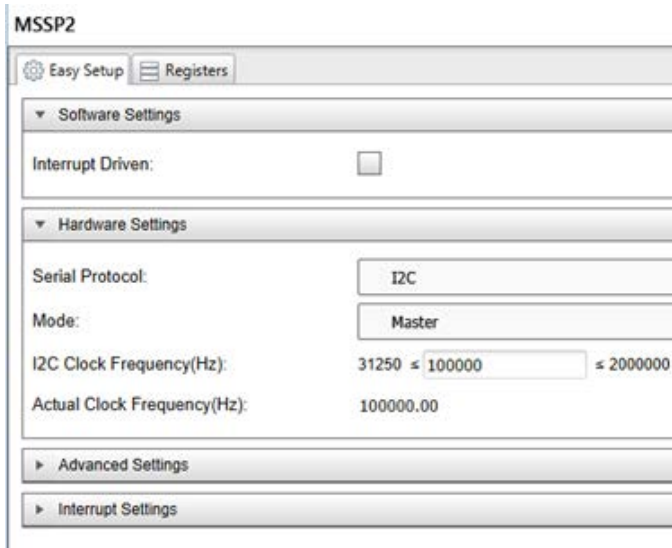
現状は混在しているが新しくリリースされるものは下記の型定義が基本

```
int8_t uint8_t
int16_t uint16_t
int32_t uint32_t
```

(3) MPLAB Code Configurator(MCC) v3.45.1 → v3.95.1

①MSSP の I2C の設定と生成関数が全面変更

- 割り込みは選択使用 基本は使わない
- 関数は全く異なる
- 設定窓は簡単化
 - － [Serial Protocol]で SPI/I2C 選択
 - － [Interrupt Driven]で割り込み選択
 - － [Mode]で Master/Slave



②SPI の設定と関数も全面変更

- － [Interrupt Driven]で割り込み選択
基本は使わない
- － [Mode]で Master/Slave 選択
- － [SPI Mode]で 0 から 3 のいずれか選択
- － [Input Data Sampled at]で Middle/End 選択

